

送りがなプリント はってん①(もとの かたちにもどす)

なまえ

小6／もとの 形に もどす(1／5)

ひづけ

形が かわった ことばを もとの かたちにもどす

文の 中の かたち

蒸した

→

もとの かたち

蒸す

もとの かたちを 声に 出して 言ってから、かん字の あとに 送りがなを 書く。

線の ことばを、もとの かたちにもどして かん字の あとに 送りがなを 書こう。

(1) この こは まだ 幼くてあるけない。

もとの かたち

幼

(2) おまつりで おみこしを 担いだ。

もとの かたち

担

(3) いのちは 尊くてたいせつだ。

もとの かたち

尊

(4) おじさんは ぎんこうに 勤めます。

もとの かたち

勤

(5) おちついて やれば けいさんを 誤らない。

もとの かたち

誤

(6) きの中の テストは とても 難しかった。

もとの かたち

難

(7) たりない ぶんは みんなで 補っていく。

もとの かたち

補

(8) あめが 激しく ふって きた。

もとの かたち

激

(9) 「おとしよりを 敬おう」と きめた。

もとの かたち

敬

(10) ころんだ とき みんなが 優しかった。

もとの かたち

優

(11) ふゆでも ひなたは 暖くなる。

もとの かたち

暖

(12) ねぎを こまかく 刻んで いれる。

もとの かたち

刻

できたら:もとの かたちを 声に 出して、文の かたちと くらべて みよう。



送りがなプリント はってん①(ない・ます・よう)

なまえ

小6／ない・ます・よう の 形(2／5)

ひづけ

同じ ことばを ない・ます・よう の 形に する

れい 延びる(のびる)

ない

延びない

ます

延びます

よう

延びよう

かん字の あとの 送りがなは、形が かわっても「もとの かたちの 送りがなの はじまり」から 書く。

ことばごとに、ない・ます・よう の 形に なるように かん字の あとに 送りがなを 書こう。

もとの かたち

ない

あつい から まどは しめない。

閉

閉める

ます

よる ねる まえに まどを しめます。

閉

(しめる)

よう

さむく なって きた。まどを しめよう。

閉

もとの かたち

ない

かれは ひとの ことばに したがわ~~な~~い。

従

従う

ます

わたしたちは きまりに したがいます。

従

(したがう)

よう

みんなで せんせいに したがおう。

従

もとの かたち

ない

この みせは ひとが おとずれ~~な~~い。

訪

訪れる

ます

はるは ことりが にわを おとずれます。

訪

(おとずれる)

よう

こんど はくぶつかんを おとずれよう。

訪

もとの かたち

ない

かれは まちがいを みとめ~~な~~い。

認

認める

ます

わたしは すなおに みとめます。

認

(みとめる)

よう

まちがえたら すなおに みとめよう。

認

できたら:3つの 形を 声に 出して、かん字の あとが どこから かわるか たしかめよう。



送りがなプリント はってん①(ただしのは どれ?)

なまえ

小6/ただし 書き方を えらぶ(3/5)

ひづけ

まちがいの 書き方は 2しゅるい

× 送りがたりない … かん字の あとの 送りがなが たりない

× 挿だ

× 送りすぎ … かん字が 読む ところまで ひらがなに してしまう

× 挿がんだ

ただし 書き方: 挿んだ

文の _____ に あう 正しい 書き方を 1つ えらんで、○を つけよう。

(1) ころんで あしが _____ あるけない。

(2) かぜで かみの けが _____。

痛たくて

痛くて

痛て

乱だれた

乱た

乱れた

(3) ゆきで みちが _____ なった。

(4) つぎの えきで でんしゃを _____。

危ぶなく

危なく

危く

降た

降りた

降おりた

(5) むかしの ちちは とても _____。

(6) さいふを なくして _____ いる。

若かかった

若った

若かった

困まって

困て

困って

(7) この せんせいは _____ だいすきだ。

(8) あの ほんが _____ たまらない。

優しくて

優くて

優さしくて

欲しくて

欲くて

欲ほしくて

(9) あした この にもつを _____。

(10) この へやは _____ ねむく なる。

届ます

届どけます

届けます

暖かくて

暖たかくて

暖くて

(11) あらったら セーターが _____。

(12) ともだちの いう ことは _____。

縮んだ

縮だ

縮ちんだ

疑がわない

疑わない

疑ない

できたら: えらんだ 書き方を 声に 出して、文に あてはめて 読んでみよう。



送りがなプリント はってん①(て・たの かたち) なまえ _____

小6／うごく ことばの て・た形(4／5)

ひづけ _____

形が かわった ことばの 送りがなの 書き方

れい おいもを むして たべる。

れい しゅくだいは もう すんだ。

蒸 して

済 んだ

考え方

れい1

れい2

① もとの かたちにもどす

むす

すむ

② もとの かたちで 送りがなが はじまる ところを 見つける

↓

蒸す

↓

済む

③ そこから あとを ぜんぶ ひらがなで 書く

↓

蒸して

↓

済んだ

線の ことばの かたちに なるように、かん字の あとに 送りがなを 書こう。

(1) なくした くつを みんなで さがしている。

(2) あさ はやく せんたくものを ほした。

探 _____

干 _____

(3) おさらを きれいに ならべていく。

(4) きょうは かさを いえに わすれた。

並 _____

忘 _____

(5) いない かみを ごみばこに すてた。

(6) しろい ぬのを あかく そめた。

捨 _____

染 _____

(7) くびに マフラーを まいて でかける。

(8) かばんを ロッカーに あずけた。

巻 _____

預 _____

(9) コップを うっかり わった。

(10) てを せっけんで あらって から たべる。

割 _____

洗 _____

(11) つかれた ので ベンチに すわった。

(12) ともだちを いえに よんで あそぶ。

座 _____

呼 _____

できたら:こたえを 声に 出して 読み、線の ことばと 同じ 読みになるか たしかめよう。



送りがなプリント はってん①(ぶんしょうの なかで)

なまえ

小6／ぶんしょうの 中で 書く(5／5)

ひづけ

ぶんしょうの 線の ことばの かたちになるように、下の 番ごうの 線に 送りがなを 書こう。

1 おてつだい

きのうは おてつだいを した。まず、おちゃわんを ① あらった。つぎに、せんたくものを
② ほして、にわを はいた。みずが つめたくて、そのときは ゆびが ③ いたかった。
さいごに、なくした ぼうしを ④ さがした。

① 洗 _____ ② 干 _____ ③ 痛 _____ ④ 探 _____

2 おじいさんと でんしゃ

おじいさんと でんしゃに のった。ふたりで まどぎわの せきに ⑤ すわって
いた。おじいさんは からだが ⑥ わかくて とても げんきだ。わたしは きっぷを いえに
⑦ わすれて しまった。ひるには おべんとうを ひぎに ⑧ ならべた。

⑤ 座 _____ ⑥ 若 _____ ⑦ 忘 _____ ⑧ 並 _____

3 ふゆの こうえん

ゆうがた、ともだちと こうえんへ いった。ゆうひが そらを あかく ⑨ そめて いた。いけの
こおりの うえは すべって、さっきは ⑩ あぶなかった。さむくて、そのとき あたたかい
ココアが ⑪ ほしかった。のみ終わった かんは ごみばこに ⑫ すてて かえった。

⑨ 染 _____ ⑩ 危 _____ ⑪ 欲 _____ ⑫ 捨 _____

できたら:ぶんしょうを はじめから 声に 出して 読み、書いた 送りがなで 読みが 合うか たしかめよう。

